

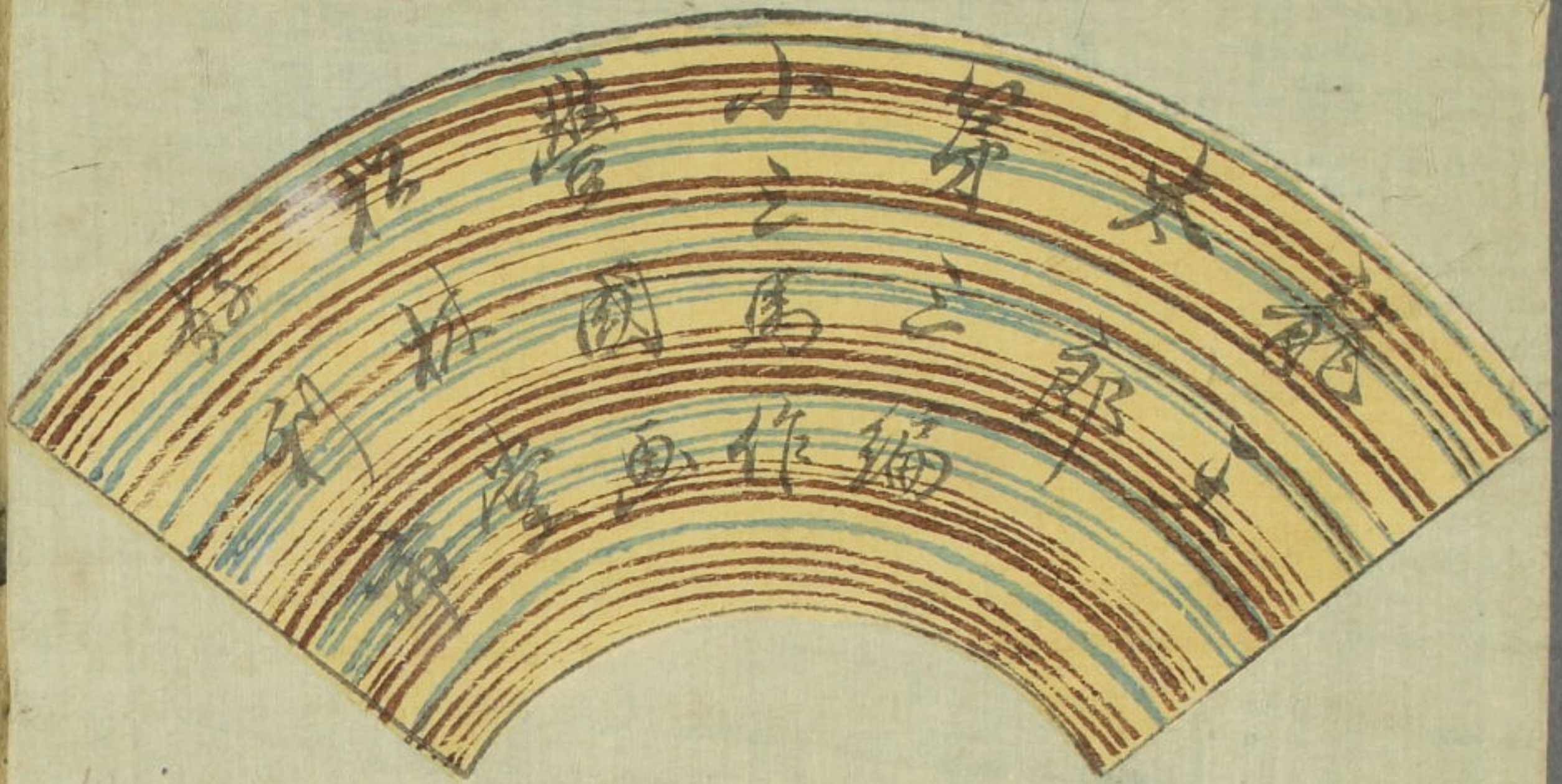
^ 13
3698
2



小三馬作



上



五泉画

門 へ 13  
 號 3698  
 卷 2

龍王太郎  
 英雄譚 三編

式亭小三馬作  
 一陽齋豐國画

弘化四丁末春

藤慶梓



六本杉之助則房



言のつれなき見世の夏目。いね  
 山路の咲花の盛人の白菊の次女  
 見草と歩入長は秋の夜も。

山名息女待宵姫





三浦七雄士の随一人大笹虎松猛久

天之龍  
神之女  
之靈

窪の牛  
太荒藤塚来家



小三馬誌

弘化四年丁未春新版

浪の術の身  
拾小舟浮床の床の  
直度世と仇人や仇討散る。  
之由縁の後々の巻小  
香く分解へ

亀井源吾玄武



奥方

尾上の前

山名入道宗全



赤松彦五郎則尚の  
幽魂



花園の尼  
秋雅

乳母千種









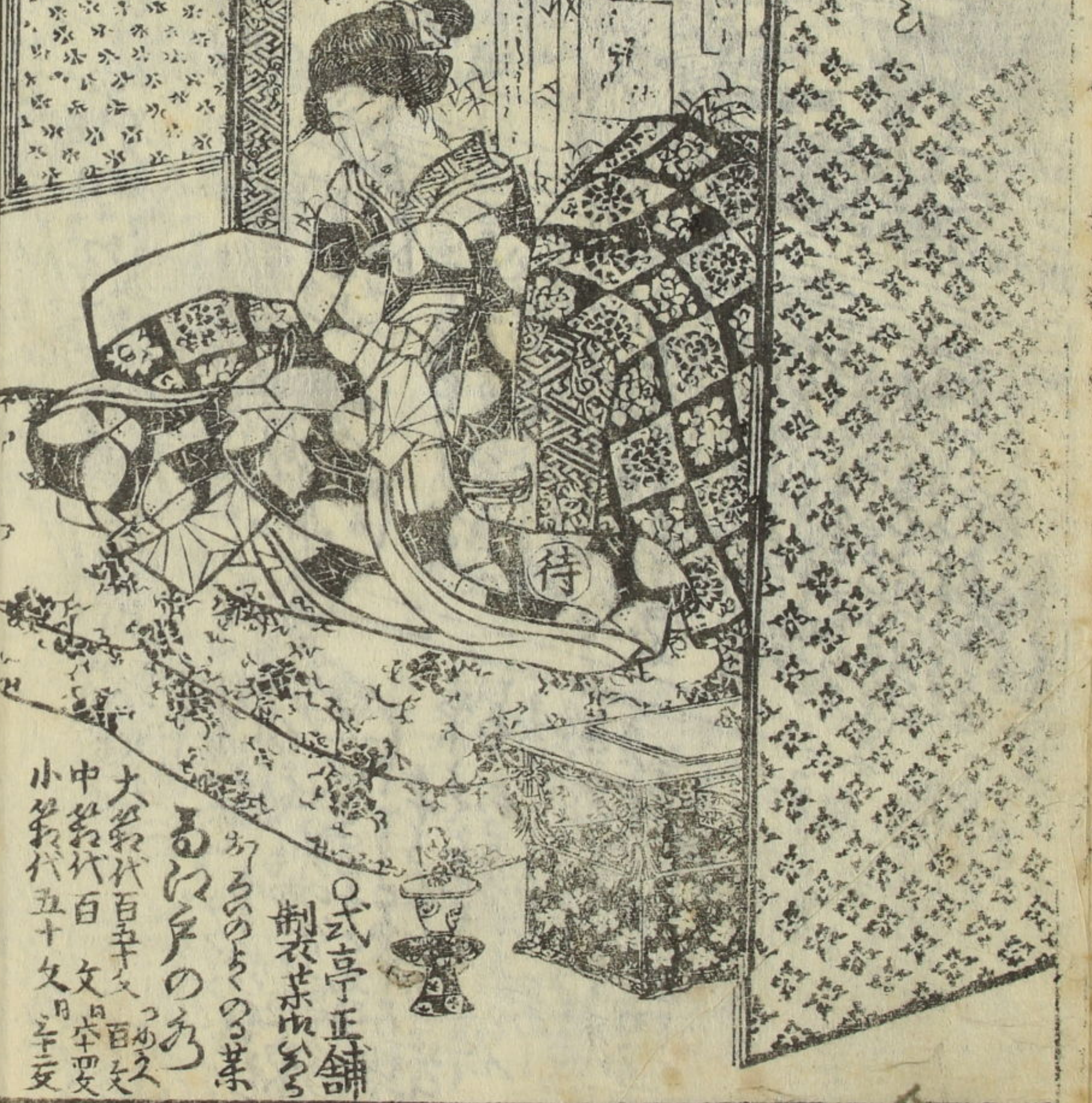






山名宗全  
その日...

山名宗全  
その日...



式亭正舖  
制衣某...  
大納代百半文  
中納代百文  
小納代五十文

天人香...  
大納代百半文  
中納代百文  
小納代五十文

豊國画小三馬作



落話江戸嬉笑

初編全冊

式亭小三馬校并序  
福亭三笑作  
雄齋國輝画

落話江戸嬉笑の初編全冊... 式亭小三馬校并序... 福亭三笑作... 雄齋國輝画... 松林堂主人欽白

狂歌笑算

初編全一冊

松林堂主人欽白

紅毛 奇方 妙あし粉 相箱つ入代百廿四文 大包季丈小包廿四文

江戸通油町南側中程 藤岡屋慶次郎梓

豊国画

龍王太郎  
第二編  
全四冊



下

藤慶梓





ついでに...  
あつちへ入ら  
れぬ...  
あつちへ入ら  
れぬ...  
あつちへ入ら  
れぬ...



あつちへ入ら  
れぬ...  
あつちへ入ら  
れぬ...  
あつちへ入ら  
れぬ...

巻五三

十

あつちへ入ら  
れぬ...  
あつちへ入ら  
れぬ...  
あつちへ入ら  
れぬ...



あつちへ入ら  
れぬ...  
あつちへ入ら  
れぬ...  
あつちへ入ら  
れぬ...

立四二

十一





















弘化五年申初春松林堂梓目録

龍王太郎英雄譚

四編 式亭小三馬作  
五編 一陽齋豐國画  
六編 一陽齋豐國画

五色深草環冊子

二編 本町庵小三馬作  
三編 歌川豊國画

繪本東越軍記

玉蘭齋 擇  
初編 編  
五雲亭貞秀画

花匂梅春嵐

式亭小三馬作  
一陽齋豐國画

嘗其昔武田上杉武勇天下に満て兩家勢を  
争ひ信州川中島はたつひ又其家々に雷名の  
諸將あるを一代の良実とせむとて我日本の  
英雄たるやと失ふるの画本なり

大島臺猫姫入小柳下亭種員作  
浪上大物合戦本一勇齋國芳画

新當世推故傳

立川焉馬作  
初編 編  
歌川豊國画

令

江戸通油町南側  
藤岡屋  
慶次郎板



蘭奢袋  
累の五代金二朱

右のありまきもの  
たぐひかまきものを用ひせ



あまのついで月  
あまのついで月  
あまのついで月  
あまのついで月  
あまのついで月  
あまのついで月  
あまのついで月  
あまのついで月  
あまのついで月  
あまのついで月

式亭小三馬作  
一陽齋豐國画

式亭正舖精製

式亭小三馬作

龍太第集  
四郎王  
全冊



藤慶版





龍王

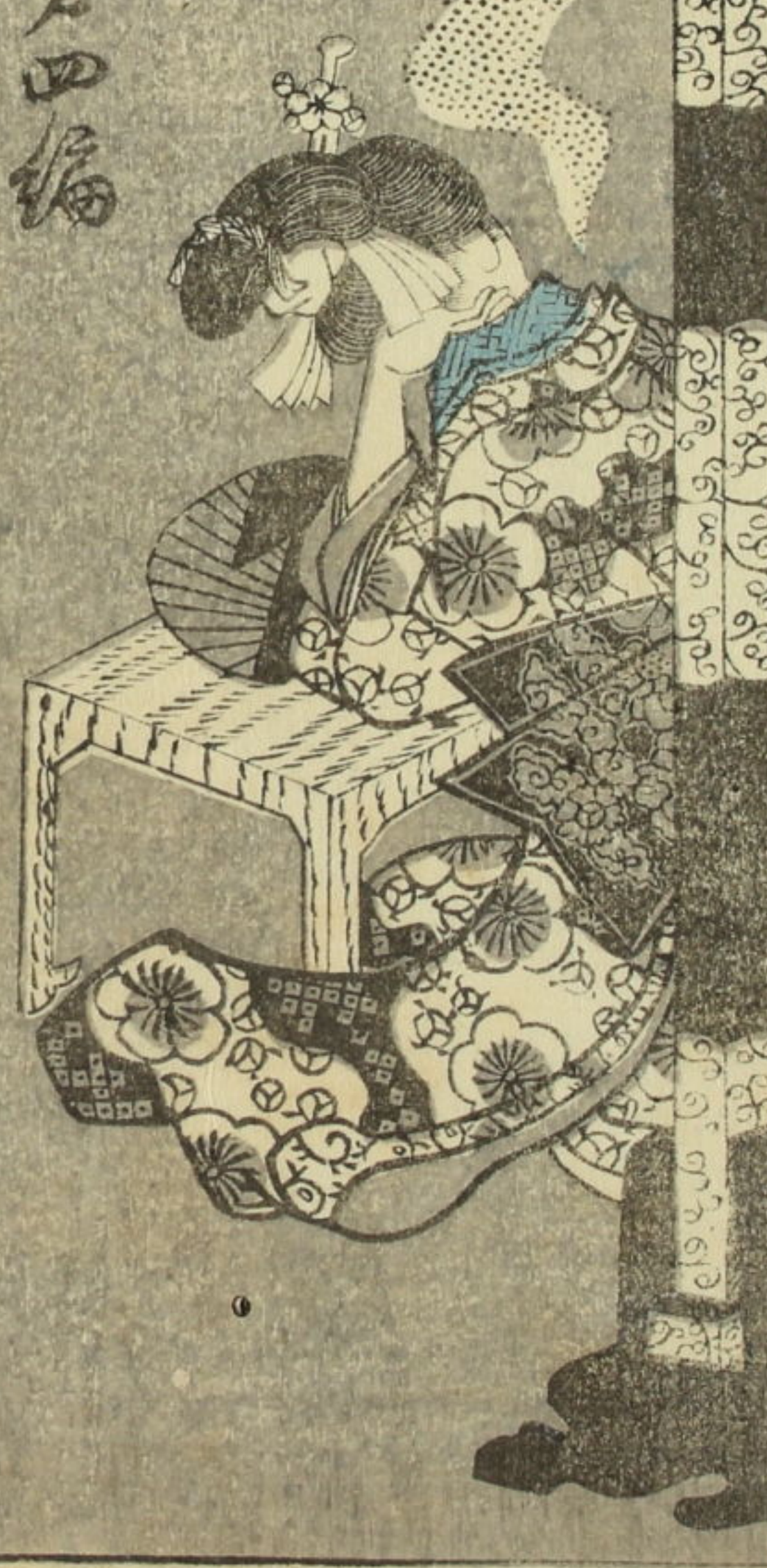
龍王

昔元王の眉の毛長くする。國中を多くと見て王位は登り給ふ大舞の  
 天の登ると夢見て天位につ給ふ國朝を神武帝海春  
 と見て四海太平治り天武の帝の山と見ると見ると位  
 と見ると給ふ世の聖人益多るといへ。聖人更なる夢見る非  
 さ。真人の物の理は通暗き心廣く寛  
 るるもあふ亡女想の夢あるといふ義あり。  
 これごとく丁固の松と見て三上の位を  
 登り政子の物の夢と求めて尾持  
 軍とられれ前小送者龍丸が舊  
 館と此館のありは梅が神女に見  
 る夢の共小日足英雄列女の一雙  
 の正夢あり。偶然たる天縁の

龍王の眉の毛長くする。國中を多くと見て王位は登り給ふ大舞の  
 天の登ると夢見て天位につ給ふ國朝を神武帝海春  
 と見て四海太平治り天武の帝の山と見ると見ると位  
 と見ると給ふ世の聖人益多るといへ。聖人更なる夢見る非  
 さ。真人の物の理は通暗き心廣く寛  
 るるもあふ亡女想の夢あるといふ義あり。  
 これごとく丁固の松と見て三上の位を  
 登り政子の物の夢と求めて尾持  
 軍とられれ前小送者龍丸が舊  
 館と此館のありは梅が神女に見  
 る夢の共小日足英雄列女の一雙  
 の正夢あり。偶然たる天縁の

龍王  
 太郎  
 英雄

第四編  
 上之卷



式真小之馬作  
 一陽齋豊國画

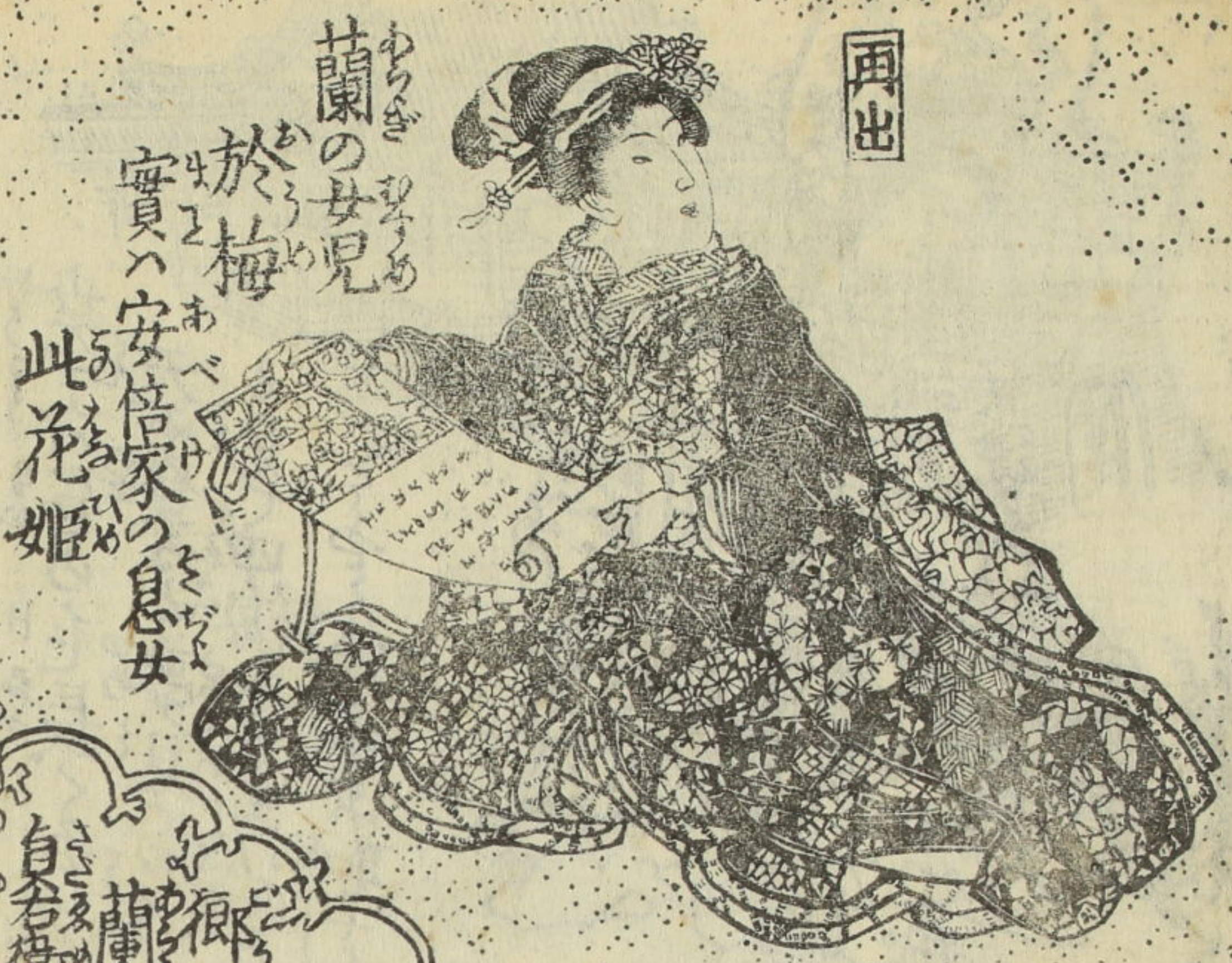
弘化戊申春 藤慶梓

國慶



魔仙道人  
妖術を行  
仙術とて人を  
惑へ夜不耶麻呂の  
井の公羽

と変へ六本則房と魔  
道不引のれ邪法の一巻と授る  
見玉姫の美  
或の



再出

蘭の女兒  
於梅  
實へ安倍家の息女  
此花姫

御士  
蘭  
自若橋



弘化戊申春小三馬戲題

本町庵のあり

昔趣を殘せる夢見種蝶  
子草子の丁数部  
魂膽の枕とてこの程の深い  
案のたのめ知智慧の夢の現の狂  
作の盧生あわぬ渡世の傍

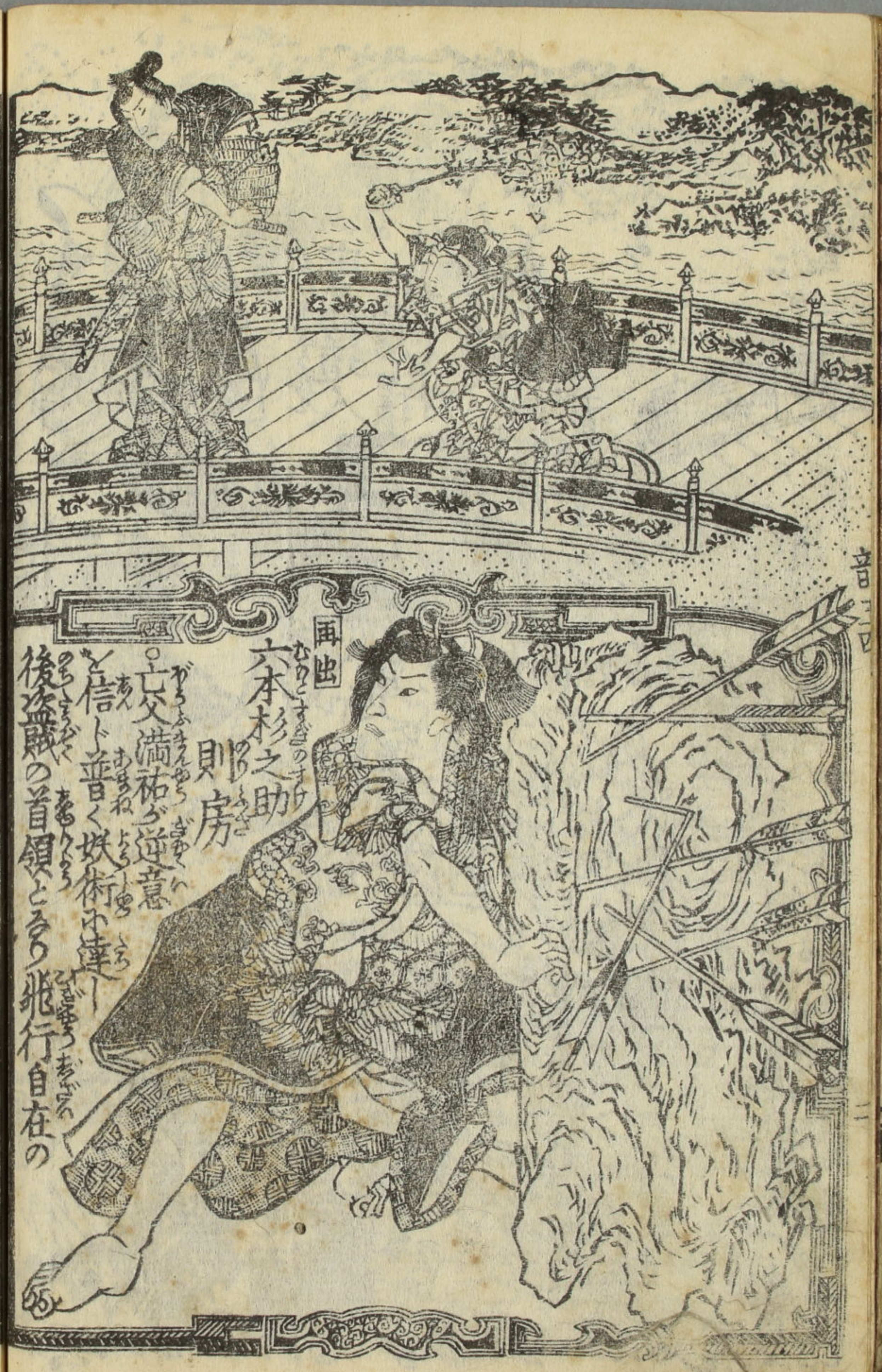


音四

再出

働きとる早業の手の内まろく自  
 称く天狗次郎苦四維木とくり

直平 柳 狭 待 宵 姫 山名 息女



音四

再出

六本杉之助 則房  
 交満祐が逆意  
 信ト普く妖術の達人  
 後次職の首領とる飛行自在の

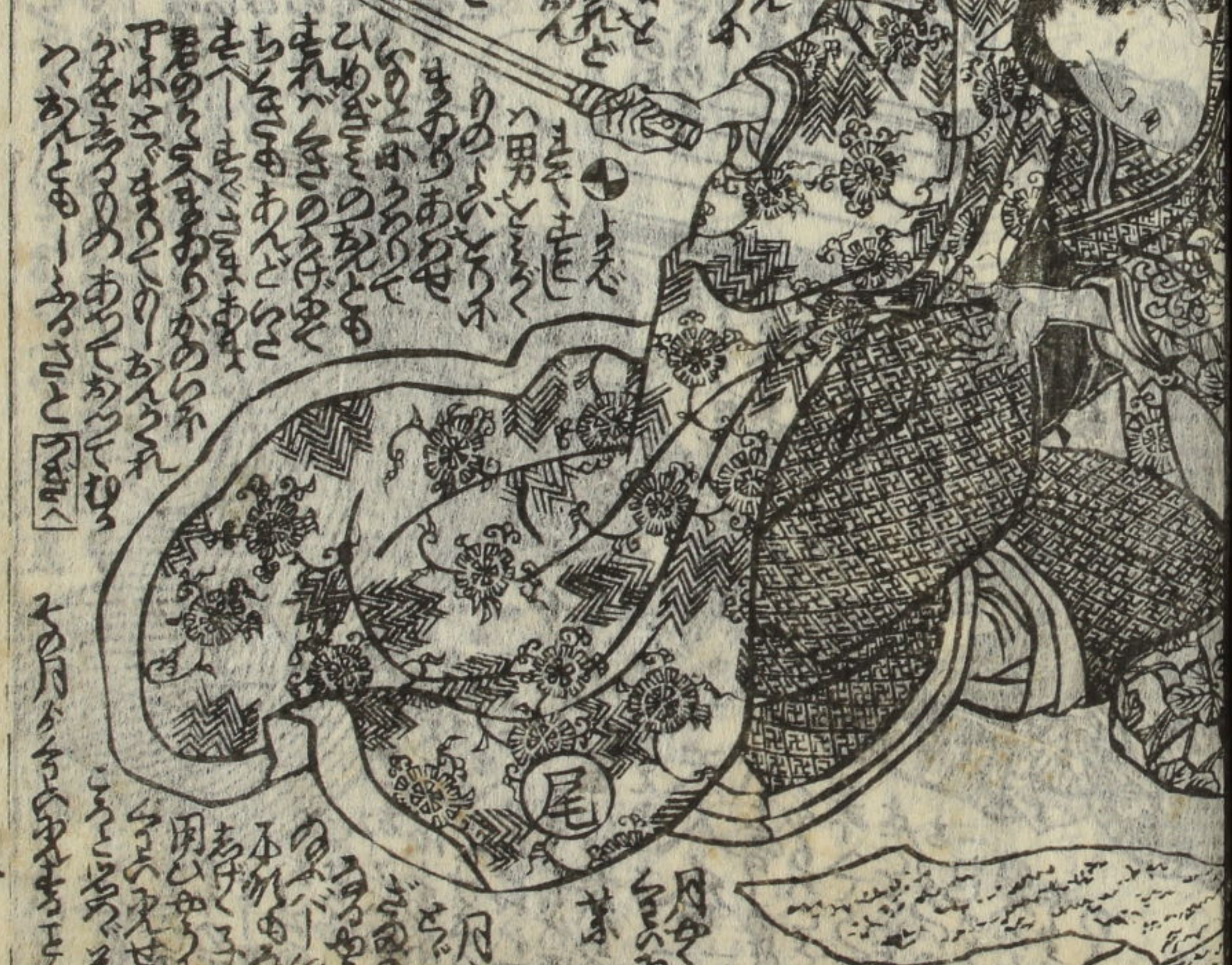


【右】のちの世たるまゝてきつる  
 ありの世とてさうとたひあ  
 ありの世とてさうとたひあ  
 ありの世とてさうとたひあ  
 ありの世とてさうとたひあ  
 ありの世とてさうとたひあ  
 ありの世とてさうとたひあ  
 ありの世とてさうとたひあ  
 ありの世とてさうとたひあ  
 ありの世とてさうとたひあ  
 ありの世とてさうとたひあ



【式正正正正】  
 神方由功  
 聖利丸  
 一色代草子又  
 世の通下系  
 あつたつた  
 かろの良木  
 いづのう  
 ひつの人  
 もねあ  
 一色用か  
 あつたつ  
 つつ  
 つつ  
 つつ  
 つつ

ちの世たるまゝてきつる  
 ありの世とてさうとたひあ  
 ありの世とてさうとたひあ  
 ありの世とてさうとたひあ  
 ありの世とてさうとたひあ  
 ありの世とてさうとたひあ  
 ありの世とてさうとたひあ  
 ありの世とてさうとたひあ  
 ありの世とてさうとたひあ  
 ありの世とてさうとたひあ  
 ありの世とてさうとたひあ  
 ありの世とてさうとたひあ  
 ありの世とてさうとたひあ  
 ありの世とてさうとたひあ



【尾】  
 月  
 天女丸  
 代百丸  
 月  
 月  
 月  
 月  
 月  
 月  
 月  
 月  
 月  
 月  
 月  
 月

みへの入りの死にひら  
 まつたつてのいし  
 なたつたつてのいし  
 なたつたつてのいし  
 なたつたつてのいし  
 なたつたつてのいし  
 なたつたつてのいし  
 なたつたつてのいし  
 なたつたつてのいし  
 なたつたつてのいし  
 なたつたつてのいし



○わあんのいしのいし  
 江戸のいし  
 江戸のいし  
 江戸のいし  
 江戸のいし  
 江戸のいし  
 江戸のいし  
 江戸のいし  
 江戸のいし  
 江戸のいし

一の巻かたるものつるへ  
 あつたつてのいし  
 あつたつてのいし  
 あつたつてのいし  
 あつたつてのいし  
 あつたつてのいし  
 あつたつてのいし  
 あつたつてのいし  
 あつたつてのいし  
 あつたつてのいし



○わあんのいしのいし  
 江戸のいし  
 江戸のいし  
 江戸のいし  
 江戸のいし  
 江戸のいし  
 江戸のいし  
 江戸のいし  
 江戸のいし









この舟をこぎてくるといふはれ  
 舟のちりりしるすはる  
 舟のちりりしるすはる  
 舟のちりりしるすはる  
 舟のちりりしるすはる  
 舟のちりりしるすはる  
 舟のちりりしるすはる  
 舟のちりりしるすはる  
 舟のちりりしるすはる  
 舟のちりりしるすはる  
 舟のちりりしるすはる

舟のちりりしるすはる  
 舟のちりりしるすはる  
 舟のちりりしるすはる  
 舟のちりりしるすはる  
 舟のちりりしるすはる  
 舟のちりりしるすはる  
 舟のちりりしるすはる  
 舟のちりりしるすはる  
 舟のちりりしるすはる  
 舟のちりりしるすはる

舟のちりりしるすはる  
 舟のちりりしるすはる  
 舟のちりりしるすはる  
 舟のちりりしるすはる  
 舟のちりりしるすはる  
 舟のちりりしるすはる  
 舟のちりりしるすはる  
 舟のちりりしるすはる  
 舟のちりりしるすはる  
 舟のちりりしるすはる

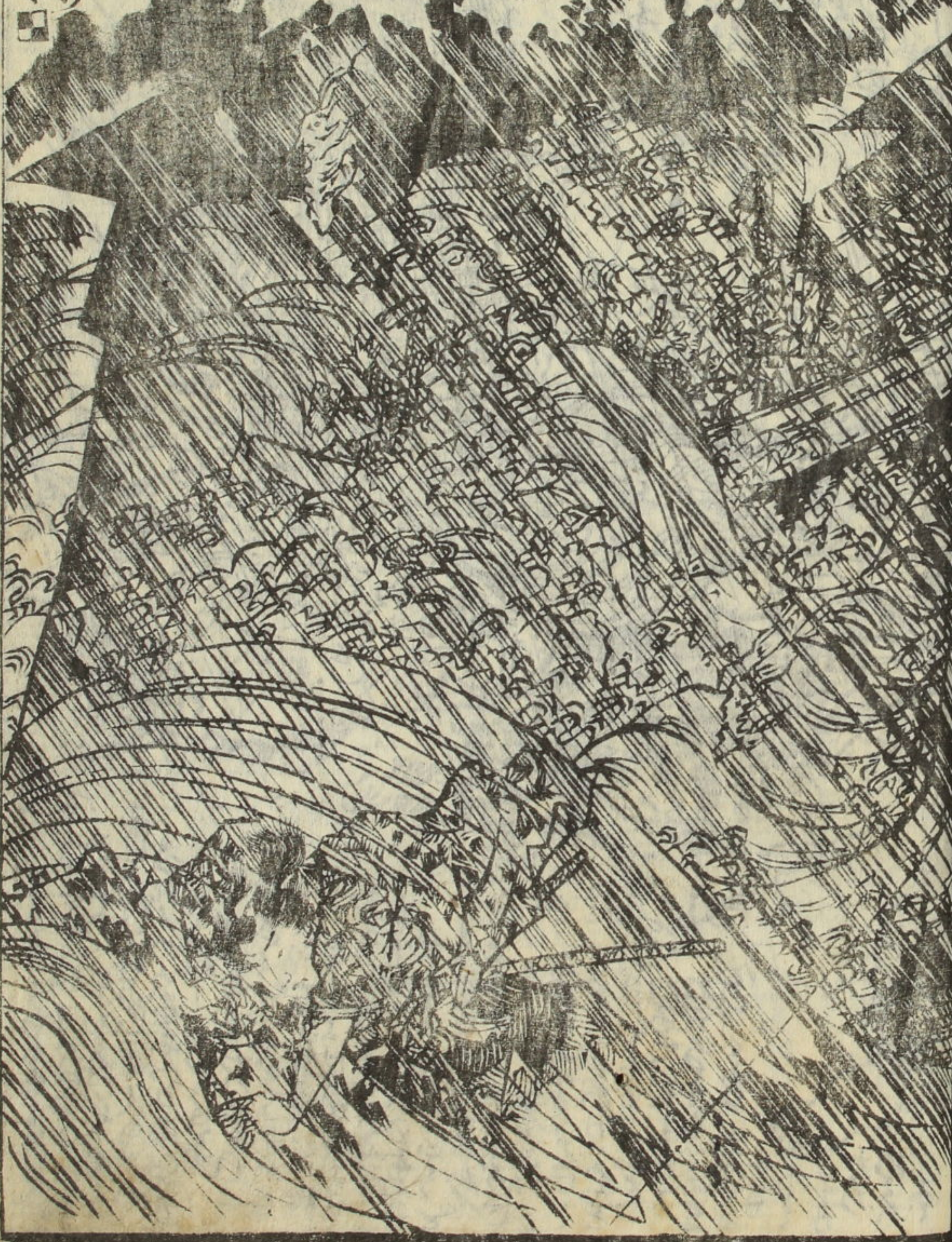


舟のちりりしるすはる  
 舟のちりりしるすはる  
 舟のちりりしるすはる  
 舟のちりりしるすはる  
 舟のちりりしるすはる  
 舟のちりりしるすはる  
 舟のちりりしるすはる  
 舟のちりりしるすはる  
 舟のちりりしるすはる  
 舟のちりりしるすはる

舟のちりりしるすはる  
 舟のちりりしるすはる  
 舟のちりりしるすはる  
 舟のちりりしるすはる  
 舟のちりりしるすはる  
 舟のちりりしるすはる  
 舟のちりりしるすはる  
 舟のちりりしるすはる  
 舟のちりりしるすはる  
 舟のちりりしるすはる

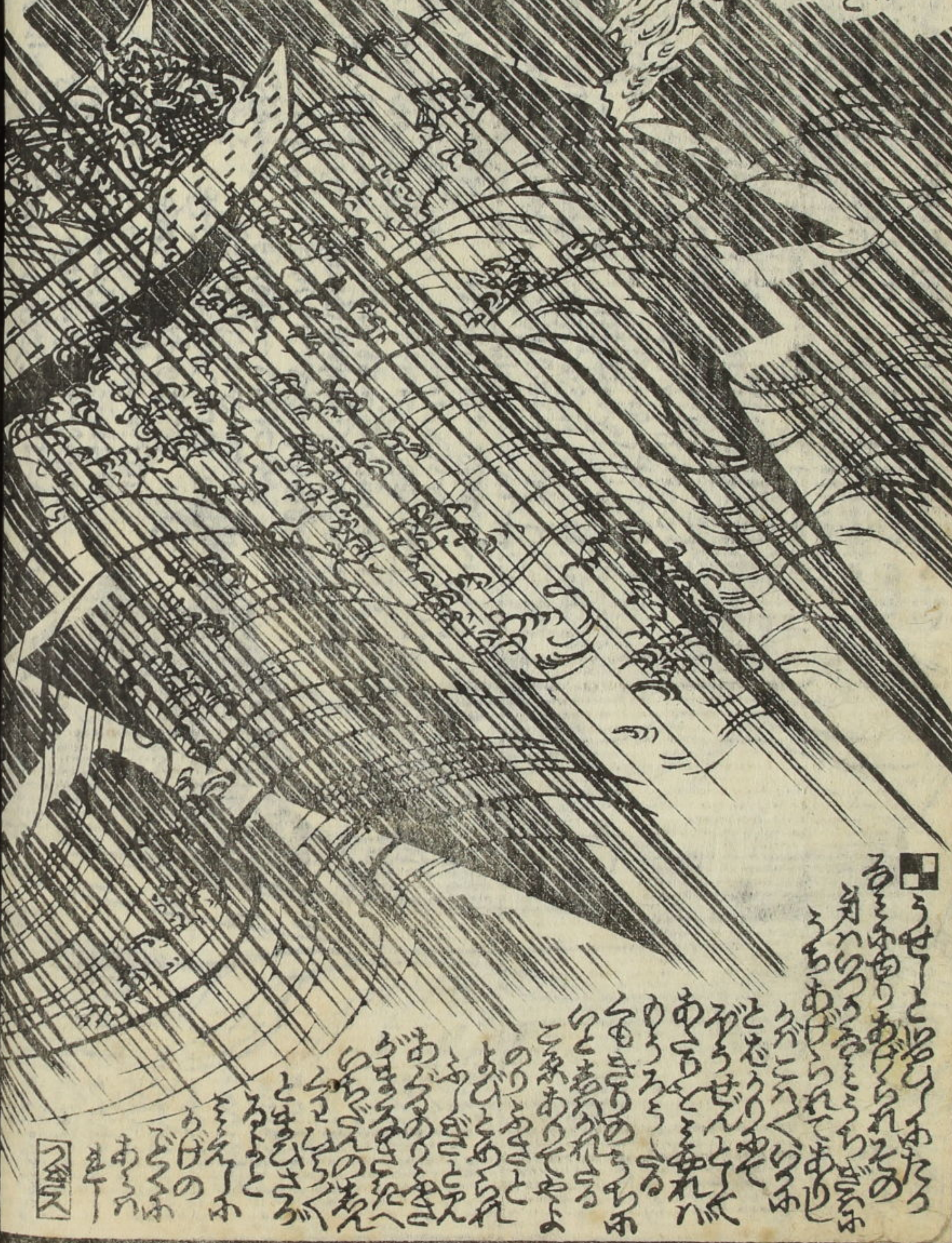
舟のちりりしるすはる  
 舟のちりりしるすはる  
 舟のちりりしるすはる  
 舟のちりりしるすはる  
 舟のちりりしるすはる  
 舟のちりりしるすはる  
 舟のちりりしるすはる  
 舟のちりりしるすはる  
 舟のちりりしるすはる  
 舟のちりりしるすはる

そのまゝ  
おとろひ小  
けりからさり  
しゆらとらふ  
あか火をく  
らひらめき  
あまのうら  
あまのうら  
ひりひり  
ていせい  
うはるといふ  
まよまの助  
かまのま  
たよまの  
るがれ  
ひらの大岩  
みよるといふ  
又まよまの  
たつるまの  
の助のうら  
ゆりあけら  
まよまの  
ちちあけら  
のりまの  
ちちあけら  
ていせい



音三四

つらぬまの  
のりまの  
ちちあけら  
まよまの  
あまのうら  
あまのうら  
ひりひり  
ていせい  
うはるといふ  
まよまの助  
かまのま  
たよまの  
るがれ  
ひらの大岩  
みよるといふ  
又まよまの  
たつるまの  
の助のうら  
ゆりあけら  
まよまの  
ちちあけら  
のりまの  
ちちあけら  
ていせい



音三四

うせしとらひ  
あまのうら  
あまのうら  
ひりひり  
ていせい  
うはるといふ  
まよまの助  
かまのま  
たよまの  
るがれ  
ひらの大岩  
みよるといふ  
又まよまの  
たつるまの  
の助のうら  
ゆりあけら  
まよまの  
ちちあけら  
のりまの  
ちちあけら  
ていせい



これいんこのちかめんと  
 りんこのちかめんと  
 こいれりやあんのいん  
 つれりやあんのいん  
 こいれりやあんのいん  
 つれりやあんのいん  
 こいれりやあんのいん  
 つれりやあんのいん  
 こいれりやあんのいん  
 つれりやあんのいん  
 こいれりやあんのいん  
 つれりやあんのいん

いんこのちかめんと  
 りんこのちかめんと  
 こいれりやあんのいん  
 つれりやあんのいん  
 こいれりやあんのいん  
 つれりやあんのいん  
 こいれりやあんのいん  
 つれりやあんのいん  
 こいれりやあんのいん  
 つれりやあんのいん  
 こいれりやあんのいん  
 つれりやあんのいん



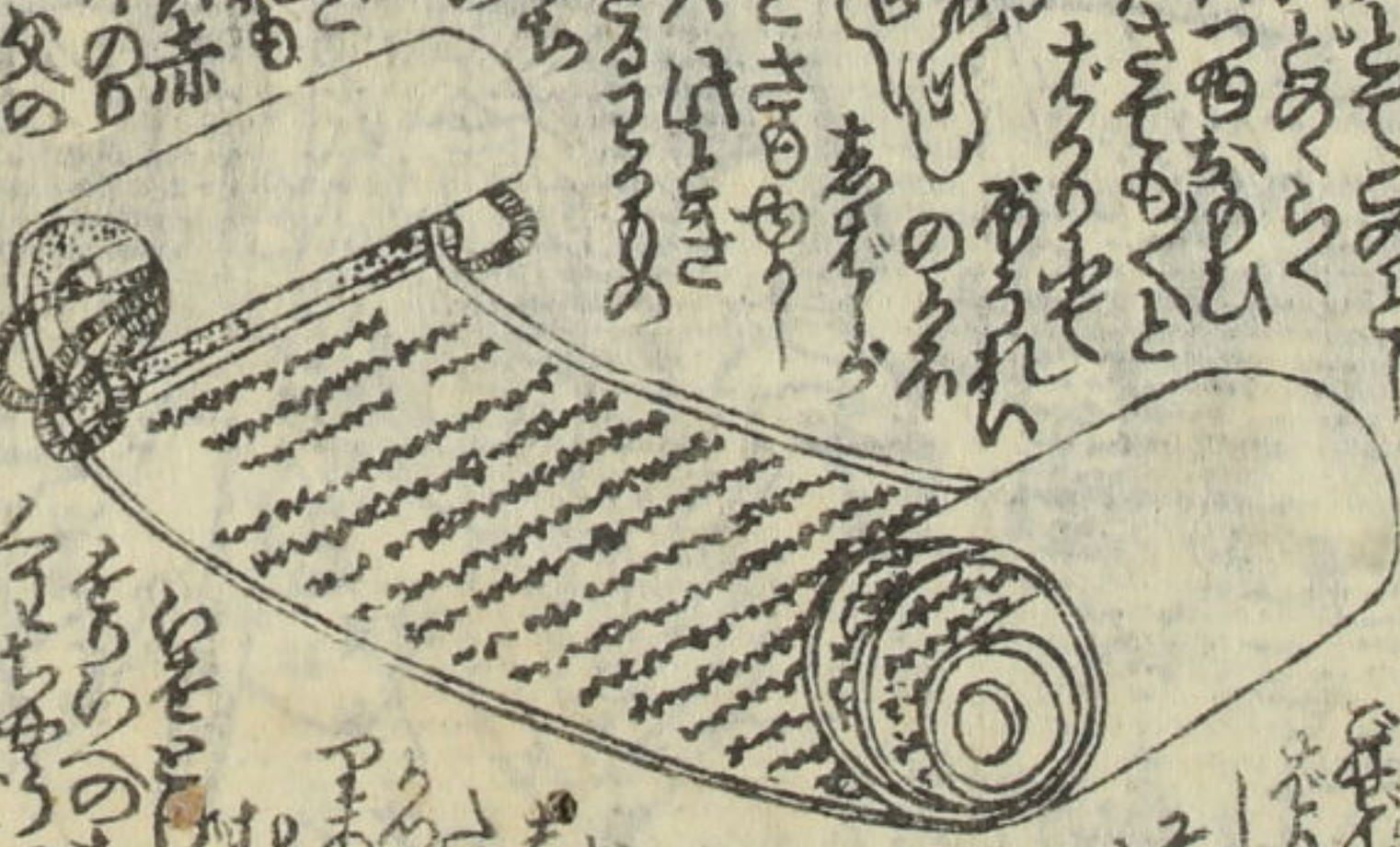
これいんこのちかめんと  
 りんこのちかめんと  
 こいれりやあんのいん  
 つれりやあんのいん  
 こいれりやあんのいん  
 つれりやあんのいん  
 こいれりやあんのいん  
 つれりやあんのいん  
 こいれりやあんのいん  
 つれりやあんのいん  
 こいれりやあんのいん  
 つれりやあんのいん

いんこのちかめんと  
 りんこのちかめんと  
 こいれりやあんのいん  
 つれりやあんのいん  
 こいれりやあんのいん  
 つれりやあんのいん  
 こいれりやあんのいん  
 つれりやあんのいん  
 こいれりやあんのいん  
 つれりやあんのいん  
 こいれりやあんのいん  
 つれりやあんのいん

豊國画小三馬作

ついでにの公おせのふりりこれとまの  
るまのののの公おせのふりりこれとまの  
ついでにの公おせのふりりこれとまの  
るまのののの公おせのふりりこれとまの

▲あつたつこのまきや  
まきやあつたつこのまきや  
まきやあつたつこのまきや  
まきやあつたつこのまきや



る

月水不煩を浴を名が  
ついでにの公おせのふりりこれとまの

天女丸

價百二十四文

月、のけのすぬらとわれはまのの  
ついでにの公おせのふりりこれとまの  
るまのののの公おせのふりりこれとまの

仙人参即効油

一頁 五十文  
貴 廿四文

引風一夜おん

四季 一名 調氣湯

あき袋入代廿八文

本家江戸本町二丁目北側中程式亭三馬製



香蝶樓豐國画





山名入道  
松林堂高様

弘化戊申  
春

松林堂高様  
第四編  
下口

国唐書

二の巻

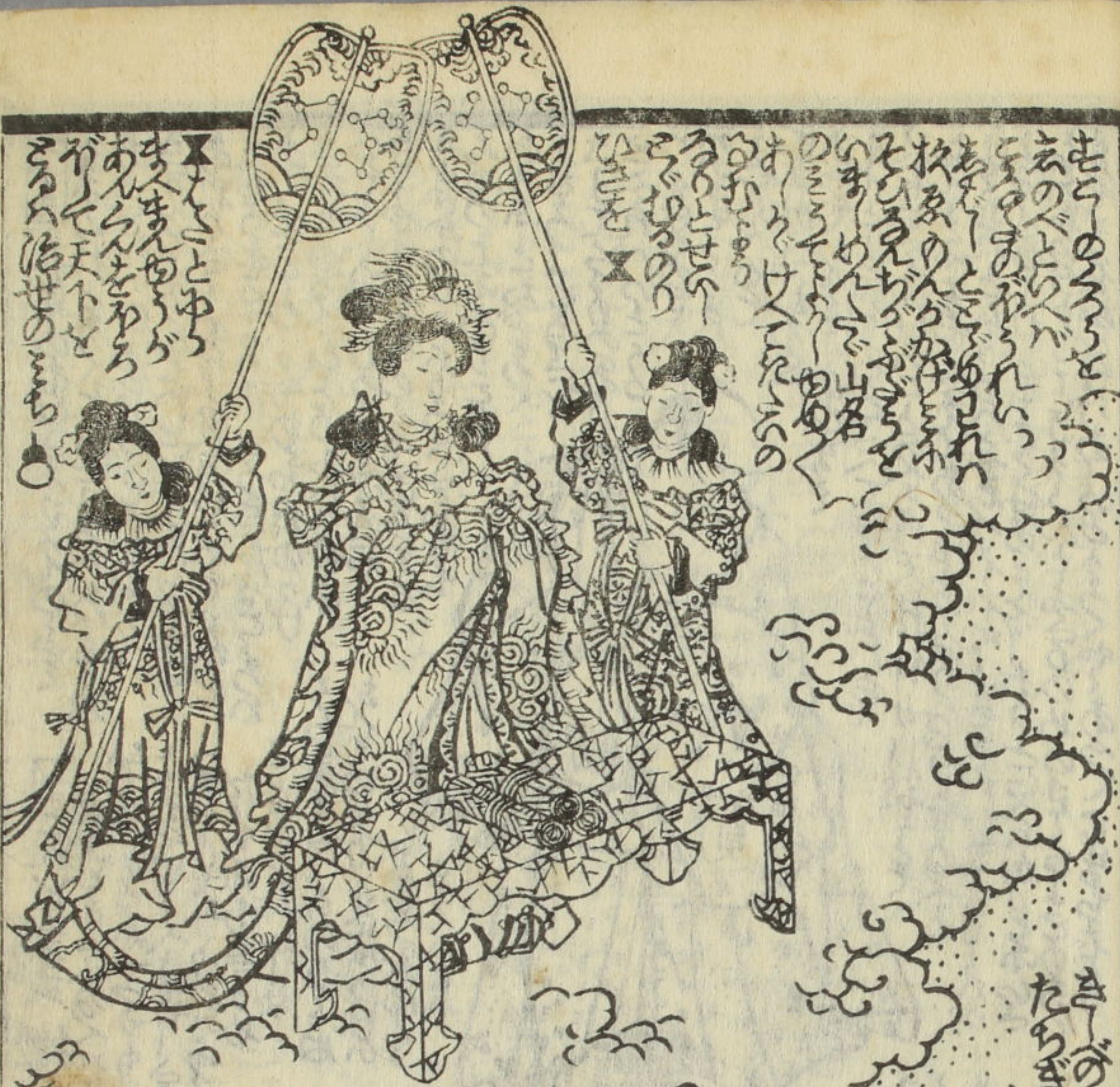


山名入道  
松林堂高様  
弘化戊申  
春

赤松のまゝり  
山名入道  
松林堂高様

世の  
松林堂高様  
弘化戊申  
春

仙道入道とて  
 方生はあまの  
 此れ世のまじり  
 ちまの自在  
 くれくれ  
 むらさき  
 あらうひ  
 ことなる



〇  
 ちよの  
 めと一世  
 この  
 父兄の

〇  
 ちよの  
 めと一世  
 この  
 父兄の

〇  
 ちよの  
 めと一世  
 この  
 父兄の

















ついでにまたもみりやうろをえんえんの手あし  
るたぬあそびがたまにあたらしくせうとせうと  
えんえんれんれんあたらしくせうとせうと  
あたらしくせうとせうとあたらしくせうとせうと  
あたらしくせうとせうとあたらしくせうとせうと  
あたらしくせうとせうとあたらしくせうとせうと  
あたらしくせうとせうとあたらしくせうとせうと  
あたらしくせうとせうとあたらしくせうとせうと  
あたらしくせうとせうとあたらしくせうとせうと  
あたらしくせうとせうとあたらしくせうとせうと  
あたらしくせうとせうとあたらしくせうとせうと  
あたらしくせうとせうとあたらしくせうとせうと  
あたらしくせうとせうとあたらしくせうとせうと

○式亭紫  
浄名のあづき香  
美あづき  
桐代 一本五ト  
結代 一本五ト  
入とた  
代 五百文  
代 二十五文  
室の水  
あづき香  
あづき香  
あづき香  
あづき香  
あづき香  
あづき香  
あづき香  
あづき香  
あづき香  
あづき香



あんなわいらやうろをえんえんの手あし  
あんなわいらやうろをえんえんの手あし  
あんなわいらやうろをえんえんの手あし  
あんなわいらやうろをえんえんの手あし  
あんなわいらやうろをえんえんの手あし  
あんなわいらやうろをえんえんの手あし  
あんなわいらやうろをえんえんの手あし  
あんなわいらやうろをえんえんの手あし  
あんなわいらやうろをえんえんの手あし  
あんなわいらやうろをえんえんの手あし  
あんなわいらやうろをえんえんの手あし  
あんなわいらやうろをえんえんの手あし  
あんなわいらやうろをえんえんの手あし  
あんなわいらやうろをえんえんの手あし  
あんなわいらやうろをえんえんの手あし

あんなわいらやうろをえんえんの手あし  
あんなわいらやうろをえんえんの手あし  
あんなわいらやうろをえんえんの手あし  
あんなわいらやうろをえんえんの手あし  
あんなわいらやうろをえんえんの手あし  
あんなわいらやうろをえんえんの手あし  
あんなわいらやうろをえんえんの手あし  
あんなわいらやうろをえんえんの手あし  
あんなわいらやうろをえんえんの手あし  
あんなわいらやうろをえんえんの手あし  
あんなわいらやうろをえんえんの手あし  
あんなわいらやうろをえんえんの手あし  
あんなわいらやうろをえんえんの手あし  
あんなわいらやうろをえんえんの手あし  
あんなわいらやうろをえんえんの手あし

三十一







九牌四方の御得志様方(以口上書)は扱身中上公  
 け度賣弘の字晒丁縮の粉製法傳來仕四季の初花と号し賣弘然ふ  
 大江那の水小き世赤小豆を六粒撰の桐三葉源風味宜く上ふ  
 上様持もては製方を用ひやう砂糖を煮立その中(右  
 丁縮を檢交くある)煉羊羹の丹座小身ある希代の妙縮  
 先初書の少年玉彼者童子の垣梅より一月月もいと白  
 きう鬼室の占元諸魂ありや月はあべ中合せり於年の芳川  
 ひよりやう内家例の癖の名ふお自在の洞法四季抄の粉詰小袋入  
 おまを災難不仕之内進相夷無利よく或一巾束の内徳用その上  
 年を平ることもいさう風味の秘は是ぞ極楽家とていふ多うと限  
 街用向と信付と市販根偏を希上の上



賣弘所

東都通り垣町まける店

近江屋久吉製

龍王太郎英雄譚

四編 式亭小三馬作  
 五編  
 六編 一陽齋豊國画

五色深苔環冊子

二編 式亭小三馬作  
 三編 歌川豊國画

花白梅春風

初編 式亭小三馬作  
 二冊 一雄齋國建画

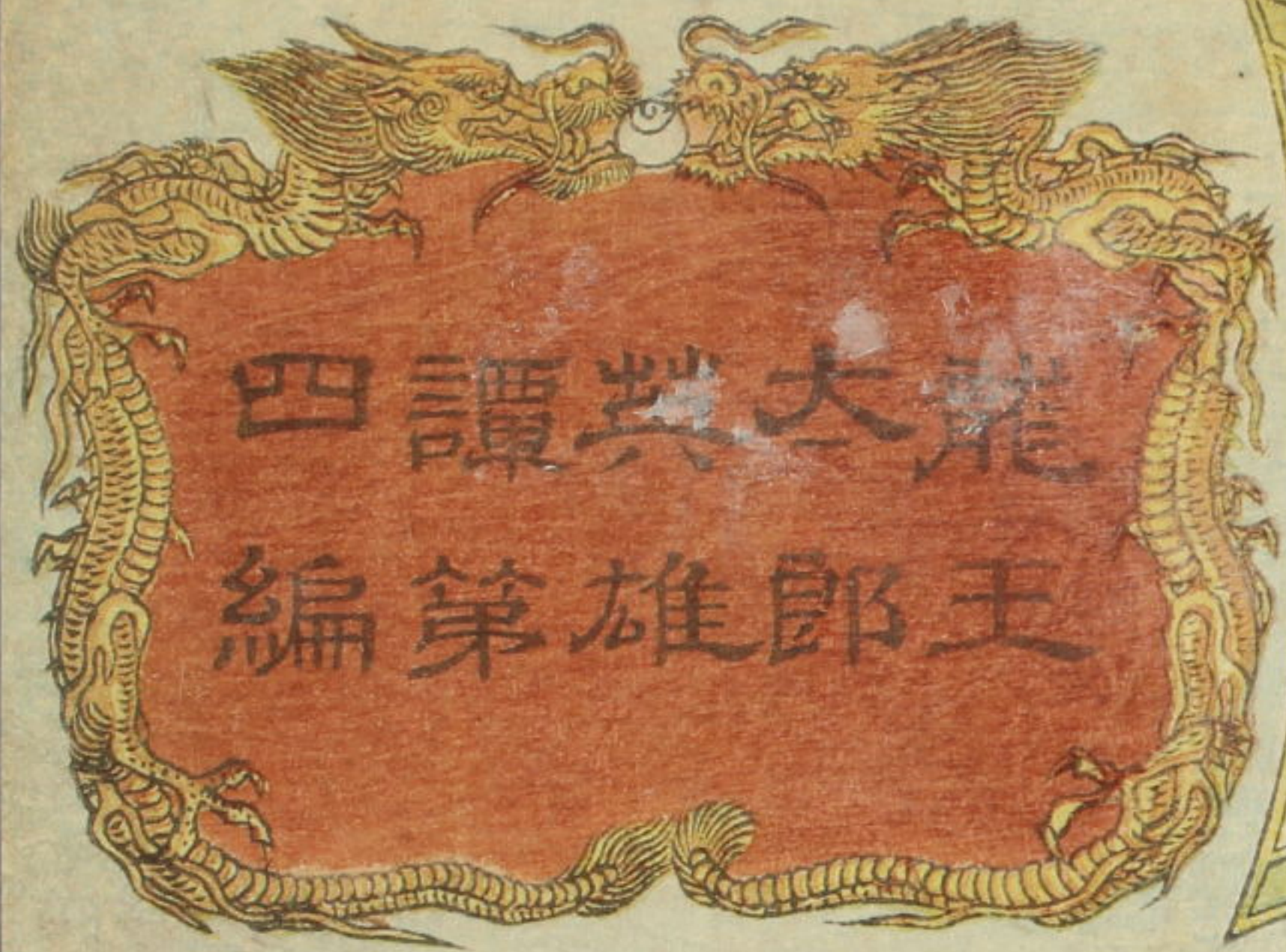
昔新當世推故傳

初編 立川焉馬作  
 二編 歌川豊國画

東錦繪地本屋

江戸通油町南側

藤岡屋慶次郎



龍大英雄  
王郎雄第編  
譚四

小三馬作  
豊國画



弘化五年  
つとめ  
藤園也  
豊國画  
さん



